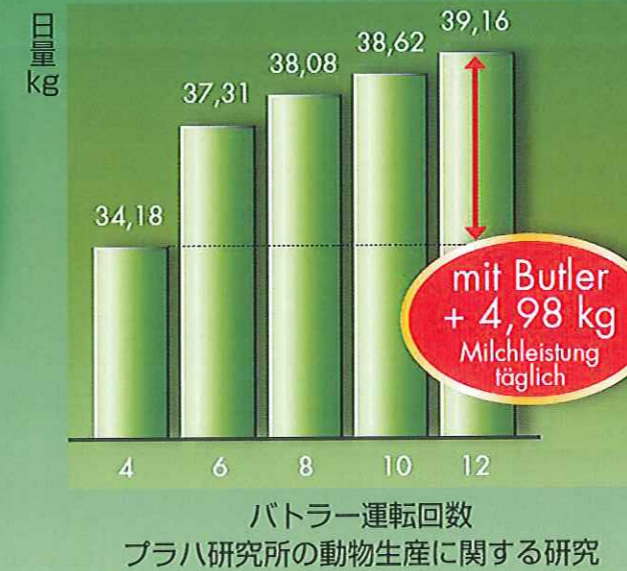




高い効率性 エサ寄せ回数と乳量の関連



研究では、最大で日量4.98kgの増加が見られました。これは乾物摂取量の増加によるものです。1日に何回バトラーを運転させるかは、給餌テーブルの長さや、牧場の給餌プランに合わせて決定して下さい（通常のパーラーでは1日12-13回、搾乳ロボットでは14-15回が推奨されます）。

乾物摂取量の増加と牛の健康をサポート

バトラーは給餌フェンスの上方に設置されたガイドレールに沿って移動しますので、多量の粗飼料を押しするために十分な力を持つことができます。スイング式ガイドレールを使用することで、1台のバトラーで給餌通路の両側に対応することが可能です。スイング式レールはミキサーなどの通行時に電動で持ち上げることができます。また、ミキサーなどの通行を妨げないようにバトラーを給餌フェンスに沿って格納することが可能です。バトラーは牧場のご要望にあわせて、1日最大30回まで自動的にスタートし、散乱した飼料を牛側に寄せながら、プログラムされた少量の濃厚飼料を放出することが可能です。動作範囲や濃厚飼料排出量は、毎回異なるプログラムを行うことも可能です。牛はバトラーが動くたびに集まり、粗飼料とトップドレスされた濃厚飼料を食べますので、乾物摂取量が高まり、結果として乳量増加が期待できます。

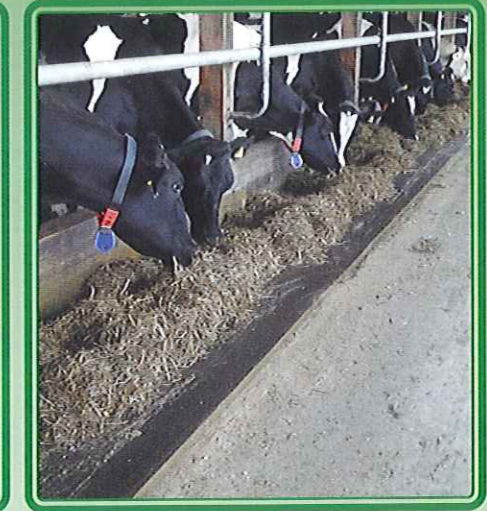
より少量の飼料を、より多回数摂取することで、ルーメン内のpHに大きなプラス効果が得られます。牛のストレスを軽減し、結果的に健康の促進につながります。より健康な牛は、より多くの泌乳回数を期待できますので、経済的にも大きな利益となります。



バトラー作動前の状態



回転式ベルトで飼料を寄せ同時に濃厚飼料を配ります



バトラー作動後の状態



牛は、給餌テーブルにより多く訪れ、より長い時間過ごしますので、乾物摂取量が増加します。バトラーは24Vバッテリーで駆動し、駐機位置に戻ると自動的に充電されます。面倒な動力配線などは必要ありません。